『就労移行支援の取り組みについて』

平成30年度福祉関係者のための
高次脳機能障害研修会

一般社団法人クリエイティブ・ソーシャルワーカーズ・ジャポン
就労移行支援　レジリエンス（国立市）
法人代表・サービス管理責任者　蟹江こうじ

平成30年10月25日(木)　13:00～16:00
国立障害者リハビリテーションセンター　本館4階大会議室

『代表者略歴』

- 蟹江　こうじ
　大学卒業後、株式会社さくらプロダクションでマンガのアシスタントとして、「ちびまる子ちゃん」や「コジコジ」の制作に携わった。
その後独立してイラストレーター・デザイナーとして活動し、書籍・雑誌やパッケージデザインなどの仕事に取り組んだ。
　また、アート作品製作の分野では、二科展のデザイン部入賞、キューバの国際デジタルアート展入賞、ウクライナの国際現代美術展入選、フランスの国際新版画ビエンナーレ入選、またフランスでの個展など国際的に活動を行った。
　そんな中、精神的な病気を持つ方に絵を教えてもらえないか、という誘いを受けたことをきっかけに、社会福祉活動を行うＮＰＯに入り、就労継続支援Ｂ型事業所で働き出した。
　そこで支援員として利用者の方の心のケアをしながら、パソコンやイラストの描き方を教えたり、それを活かしたカレンダーや手帳作りなどの作業を、利用者の方たちが取り組めるように８年間支援を続けてきた。
　当初は統合失調症やうつ病、神経症などの方が中心だったが、徐々に高次脳機能障害の方を受け入れるようになり、その症状の特性や独自性について学び、高次脳機能障害の方に対する適切な支援や、効果的なやり方に取り組んできた。

高次脳機能障害の現状について

- 高次脳機能障害は認定分類上は精神障害になっているが、その症状の特性や症状が他の精神障害の方と大分異なるため、従来の精神障害の方を対象とした施設での受け入れやマッチングが難しく、居場所やケアを受けられる場所が少ない。
- 一方当事者は、社会の中で仕事をしてきた方が、事故や病気の後遺症によって高次脳機能障害になる場合が多いため、受傷後にも復職を希望したり、できる仕事を続けたい希望が多いが、会社側が障害のことをわからず戸惑う。
- 高次脳機能障害がまだ社会の中であまり知られていない上、比較的新しい障害のため、医療や福祉の支援を十分に受けられていない現状にある。

当事者や家族の声

- 高次脳機能障害の人を受け入れてもらえる場所がほしい
- 地域の施設に行ったが、高次脳の特性やケアの方法をわかってもらえない
- 精神障害中心の作業所を紹介されたが、他の利用者たちに違和感を感じるし、職員からも子ども扱いされているようで、自分の居場所ではないと感じた。
- また会社で働きたいが、会社側も病気のことがよくわからずお互いに戸惑っている
- 子ども～青年時代の受傷者は社会適応に特有の困難さがある
- 日中に仕事も通う場所もなく、家に引きこもる状態になり、家庭の負担が大きいし、本人も気持ち的にだめになってくる。

高次脳機能障害中心の就労移行支援を開設

- そのため当事者や家族の要望を受けて、今まで現場で支援をしてきた経験を元に、高次脳機能障害を持つ方のための就労移行支援事業を開設することとなった。

- 2016年10月から東京都から指定認可を受けて、東京都国立市に就労移行支援事業所「レジリエンス」を開所して、高次脳機能障害を持つ方のそれぞれの特性や症状に合わせて、個別指導でプログラムを行い、リハビリやパソコン、就労支援に取り組んでいる。

- それぞれの方の希望や症状に合わせて個別指導をするので、発達障害やうつ病などの他の病気を持つの方で、他の事業所で合わなかったかった方の受け入れと支援も行っている。

『就労準備支援の取組み①』

「高次脳機能障害の方の居場所作りと就労支援」

- 高次脳機能障害の症状は百人百様であり、それぞれの方の症状や特性、抱えている困難さも多様なことから、既存の精神障害の福祉施設から受け入れられなかったり、ご本人が馴染まず利用が継続できないことが多い。
　そうすると通う居場所や社会復帰につながるケアやトレーニングを受けられず、また自分に合う仕事ができるような就労支援を利用できずに、家に引きこもる状態になり症状回復につながらない。
　それなので、高次脳機能障害の方の支援の経験値を集約して、当事者の方が通いやすくなるような居場所作りと就労支援に取り組んでいる。

まずは「予定通りに安定して通所できる」ことを目標に。

本人が通うことが楽しいと思えるような工夫が必要。

例えば、受障前は建築関係の力仕事をしており、パソコンに対して拒否反応があったＡさん場合。

- 視覚障害もあるAさんは、パソコンに対して極度の苦手意識があった。そこで、 Ａさんが大好きな歌手の歌詞を拡大コピーし、歌詞を（YouTubeでその曲をBGMにし）入力するワークを設定。※入力画面は視覚障害を考慮しカスタマイズ。
- 「これならやっても良い」と取り組まれ、当初は１つ仕上げるのに３日かかっていたが、集中力は徐々についていき、その後、洋楽の英語、訳をミックスした長文にも取り組み、長文課題もクリアした。クリア後に当初取り組んだ課題を再度おこなうと、３０分でクリアできた。　このインターバル走的な進め方によって、確実にスキルアップしていることが体感でき、モチベーションの維持にも繋がった。
- 次のスッテプとして、好きな歌手のプロフィールのレイアウトに進みWordのレイアウト機能も分かるようになってこられた。
- その後は「楽しい入力」から「事務的入力」に移行し、紙ベースのデータをWordで打ち変え、データの電子化ができるようになった。

スキルアップのためのパソコン作業などでも、一定時間集中力を保つことが時に困難である。しかし、趣味などの自分が好きなことや関心を持っていることをすることで、自然に集中して取り組める時間が増えて、それが仕事にも活かせるようになる。

『就労準備支援の取組み②』

「症状や希望に合わせた個別のプログラム」

- 一般的な障害福祉サービスの事業所では、全体で行うプログラムや作業が時間割のように決まっていて、利用者の方はそれに合わせることが多い。
しかし高次脳機能障害の方は症状が千差万別のため、それぞれの方の症状や今後の希望に合わせて、回復につながるように適切な個別の支援プログラムを組むことに力を入れている。

「本人の出来ていることをより伸ばす」支援。
本人の強みを生かし、弱みを薄める。
「残存している能力を使い、回復につなげる」支援。

↓

<u>自信の回復が就労準備性を高める</u>

例えば、小児期の交通事故で受障したＢさんの場合。

- 当事業所に来る前は福祉サービスを利用しておらず、ご両親がハローワークなどに同行し面接を繰り返していたが中々就労に至らないでいた。
- 就労準備性を確認する面接を行うと、面接の経験は豊富だったので、ある程度のことは答えられたが、自分の障害について聞かれるとうまく答えられない。
- 当初はPCのスキルアップのプログラムもいれていたが、途中から面接の練習に特化したプログラムへ変更。誰からも親しまれるキャラクターを持った方だったので、その強みを生かし、面接力をより強化した。
- １次面接を突破し、２次面接へ進んだので、採用後に向けて事務の実践ワークを始めたが、この負荷が本人に合わなかった。
- そこで、今できていることの確認をするワークに変え、自信を持って次のステップへ進める支援を継続。
- 無事に就労し、現在も継続中（1年半経過）。

『就労準備支援の取組み③』

「アート活動などのワークショッププログラム」

- 手先を使うプログラムは、自然にリハビリにつながり、集中力向上、リラックス効果、コミュニケーション力向上効果もある。
　そのためワークショップのプログラムとして、アート、園芸、音楽、調理実習、文芸、英会話、プラモデルの組立などがあり、希望によって参加できるようにしている。

「楽しみを回復につなげる」支援。
**　本人の希望とマッチした「楽しみ」を含んだプログラムによって、集中力を上げていく。**
**　また、リラックスすることの大切さも自然に取得していく。**

↓

集中力の向上とセルフケアする力が就労準備性を高める

例えば、集中力が持続しなかった元公務員Ｃさん場合。

- Cさんは前職ではPCを多用する仕事されていたので、PCスキルがあり、また安定した通所もできていたが、集中力が持続しなかった。
- アート（特に絵）は苦手で殆ど描いたことはなかったCさんだったが、気分転換になればと、アートプログラムに参加。
- 絵手紙ときり絵のワークを中心に進め、最初は手探りであったが、みるみる上達していった。絵の構図、色彩など考えること、切り絵の細かいカット（カッター使用）作業を通して、集中力と考える力が向上。面接の資料作り、面接練習にも集中力がきれることなく取り組めるようになった。
- 無趣味だったCさんの楽しみができてリラックス効果もあり、会話も以前よりスムーズになってきた。
- 昨年12月に就職が決まり、現在も継続中。

2018年4月～現在までの就職先一覧

- １．　2018年4月　飲食関連会社　店舗業務
- ２．　2018年5月　飲食関連会社　店舗業務
- ３．　2018年6月　ＩＴ関連特例子会社　事務
- ４．　2018年6月　電気関連特例子会社　事務
- ５．　2018年8月　インテリア関連会社　店舗業務
- ６．　2018年9月　ＩＴ関連会社　事務
- ７．　2018年9月　飲食関連会社　店舗業務
- ８．　2018年9月　建設関連会社　総務（復職）
- ９．　2018年9月　福祉関連非営利団体　環境整備
- １０．2018年9月　石材加工関連会社　事務（復職）
- １１．2018年9月　企画・デザイン業　企画

※事業所の定員は２０名です。

『まとめ』

- 高次脳機能障害を持っている方の就労準備支援を進めるうえで、一番大事なことは本人の嫌がっていること、負荷になりすぎることはやらないこと。そして、本人が楽しく無理なく取り組めることを継続することである。

↓

- その為にはそれぞれの方にマッチした個別プログラムが必要。

↓

- 本人の強みをより伸ばし、弱みをカバーできるようになる為のサポートをベースにした「その方の為の支援プログラム」をより良いものにして、就労支援を進めていきたい。

「ご清聴ありがとうございました」

自分らしい仕事ができるように　あなたのための　プログラム

レジリエンスでは、病気や困難を持つ方たちが、自分らしい仕事ができるように、
個別支援プログラムを提供しています

E-mail:cswjapon@gmail.com　　http://cswjapon.wixsite.com/mysite